

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公表番号】特表2008-545616(P2008-545616A)

【公表日】平成20年12月18日(2008.12.18)

【年通号数】公開・登録公報2008-050

【出願番号】特願2007-555704(P2007-555704)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/14	(2006.01)
A 6 1 P	25/16	(2006.01)
A 6 1 K	31/198	(2006.01)
A 6 1 K	45/06	(2006.01)
A 6 1 K	31/416	(2006.01)
A 6 1 K	31/155	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	25/14	
A 6 1 P	25/16	
A 6 1 K	31/198	
A 6 1 K	45/06	
A 6 1 K	31/416	
A 6 1 K	31/155	

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月19日(2009.2.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

L-ドーパまたはドーパミンアゴニストにより誘発されるジスキネジーの予防または治療用医薬の製造において、ニューロンのNO合成酵素の医薬的に許容される選択的阻害剤の使用。

【請求項2】

前記L-ドーパまたはドーパミンアゴニストにより誘発されるジスキネジーを減少すると同時に、パーキンソン病の治療に、併用で、別々にまたは連続的に使用される医薬の製造において、(i)ニューロンのNO合成酵素の医薬的に許容される選択的阻害剤および(ii)L-ドーパまたはドーパミンアゴニストの使用。

【請求項3】

医薬が、L-ドーパまたはドーパミンアゴニストの反復投与の結果としてその患者に生じるジスキネジーの治療用である、請求項1または請求項2に記載の使用。

【請求項4】

ニューロンのNO合成酵素の医薬的に許容される選択的阻害剤を含むことを特徴とする、L-ドーパまたはドーパミンアゴニストにより誘発されるジスキネジーの予防または治療用医

薬組成物。

【請求項 5】

(i) ニューロンのNO合成酵素の医薬的に許容される選択的阻害剤および(ii) L-ドーパまたはドーパミンアゴニストを含むことを特徴とする、前記L-ドーパまたはドーパミンアゴニストにより誘発されるジスキネジーを減少すると同時に、パーキンソン病の治療用医薬組成物。

【請求項 6】

L-ドーパまたはドーパミンアゴニストの反復投与の結果としてその患者に生じるジスキネジーの治療用である、請求項 4 または請求項 5 に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

(i) ニューロンのNO合成酵素の医薬的に許容される選択的阻害剤、(ii) L-ドーパまたはドーパミンアゴニストならびに(iii) 一以上の医薬的に許容される(i) および / または(ii) のための希釈剤または担体を含み、パーキンソン病の治療に対して同時に、併用で、別々にまたは連続での使用のための単位投与形態にある医薬組成物、医薬品またはパッケージ。

【請求項 8】

末梢の脱炭酸酵素阻害剤をさらに含む、請求項 7 に記載の医薬組成物、医薬品またはパッケージ。

【請求項 9】

末梢の脱炭酸酵素阻害剤がカルビドパまたはベンセラジドである、請求項 8 に記載の医薬組成物、医薬品またはパッケージ。